

[特別企画1]

初回献血者確保におけるメッセージリレーの実施について

河野裕樹, 後藤義章, 安達真太朗, 加藤敏宏, 関 吉広, 藤本 学, 山田健治

大分県赤十字血液センター

【はじめに】

固定施設で受付業務や呼び込み業務を行う中で、献血未経験者の献血に対するイメージには「怖い・痛い」などのネガティブなイメージが多い印象を受けた。このネガティブなイメージを払拭できれば、もっと気軽に献血にチャレンジできるようになり、初回献血者の増加につながるのではないかと考えた。

ネガティブなイメージを払拭するうえで、実際に献血を初めて経験した初回献血者の感想こそ一番影響力があるのではないかと考え、メッセージリレーという形で対策を行い、効果が得られたので報告する。

【実施内容】

固定施設に来所された初回献血者に趣旨の説明を行い、メッセージ記載の協力と掲示の許可を依頼した。メッセージを記載する用紙は、行数を少なくし名前の項目を省くことで、協力者が気軽に記載できるよう工夫した(図1)。

協力者は性別や年齢を問わず募集し、多種多様なメッセージを集めることで、興味を持った方が自身に近い条件の「共感できる・興味が持てるメッセージ」の充実を図った。集めたメッセージは固定施設内ではなく、商業施設内の人通りが多い場所に掲示し、興味を持った方が気軽に閲覧できるように環境を整えた。

また、メッセージを募る際に取り組みを「リレ

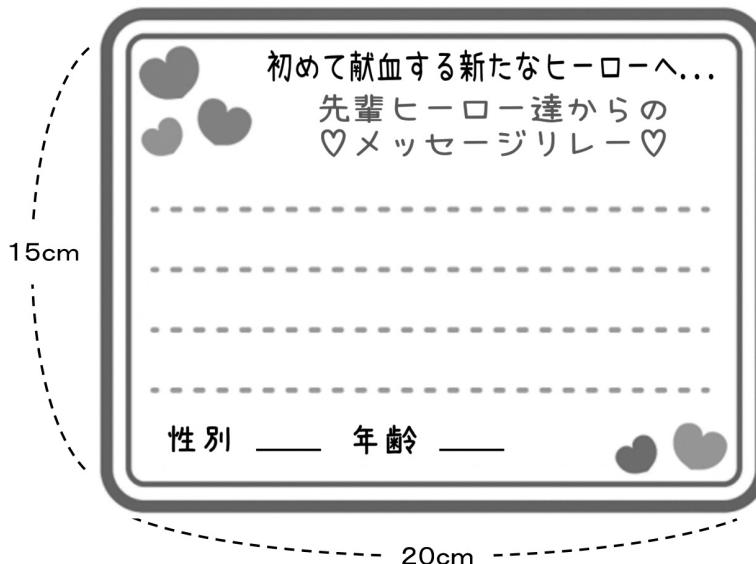


図1 メッセージリレー記載用紙

ー」としたこと、メッセージを閲覧後初めて献血に挑戦した初回献血者が、次の初回献血者にメッセージを書くという循環する流れを作ることができ、取り組み自体を継続が容易なものとすることができた。

【結果】

平成29年12月より掲示を行い、掲示前後で初回献血者数の比較を行ったところ、12カ月中10カ月で初回献血者数が増加した。

実数で比較すると、掲示前1年間では921名だった初回献血者が、掲示後1年間で1,090名と約1.2倍に増加した(図2)。

また、10代・20代などの若年層だけではなく、メッセージを読んだ40代・50代以上の方々にも初めて献血に協力いただくことができた(図3)。

掲示後の初回献血者になぜ献血に協力いただけたのかを伺ったところ、「今まで勇気が出なかつたがメッセージを見て挑戦した」という内容も聞きとることができた。さらに、誰でも気軽にメッセージを読めるように掲示したことにより、献血自体の広報にもつながった。

【考察】

上記の結果より、メッセージリレーが初回献血者の増加に一定の効果が見込める取り組みであると考える。

今回取り組みを行った献血ルーム「わったん」では献血者数が減少傾向にあるため、そのような状況の中で結果が残せたことから、今後の献血者確保・若年層確保にも効果が得られると期待している。

また、メッセージリレーを行うにあたり発生する費用として、印刷費や掲示の際の装飾費など低成本での実施が可能であった。メッセージを一定数集める準備期間さえ設ければ、他センターでも容易に実施が可能であると考える。

今後の課題として、メッセージリレーの存在を一般の方々に広く周知し、取り組みの認知度を高めていく必要がある。周知の方法としては、新聞やテレビといったメディアを有効活用し、現在行っている紙媒体での掲示だけではなく、SNSを有効活用することで献血に興味を持った方々が気軽にメッセージを読める環境を整えていく必要がある。認知度を高めることで、メッセージの持つネガティブなイメージの払拭に対する影響力も比例

献血ルームにおける初回献血者の推移①
(H28.12月～H30.11月)

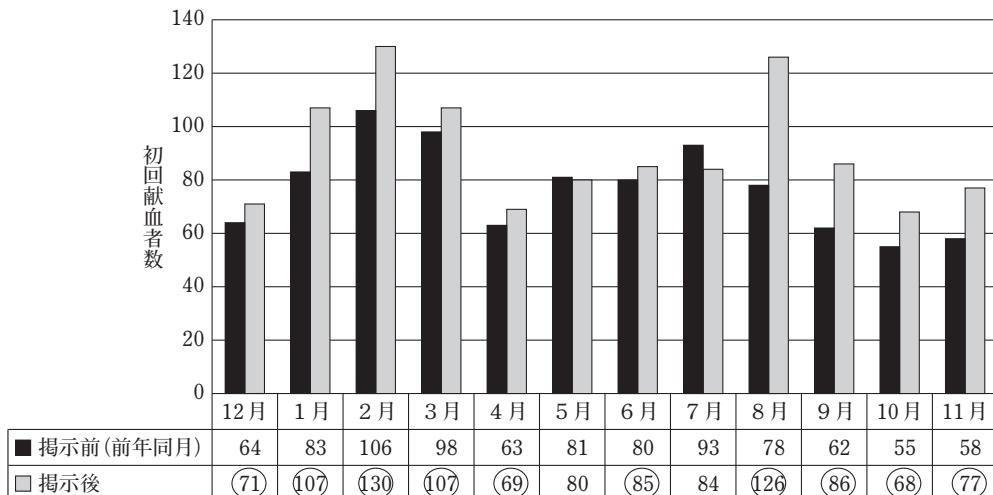


図2 初回献血者数の推移(各月比較)

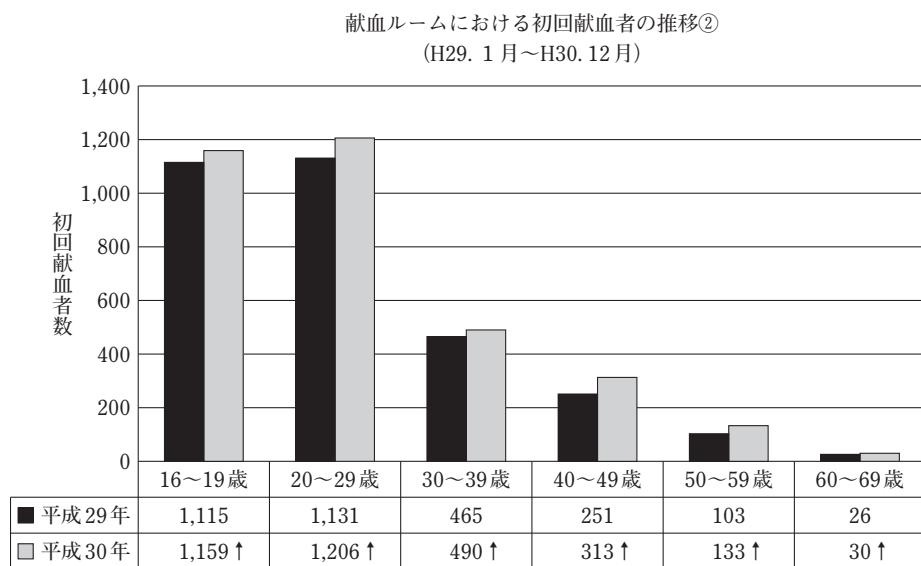


図3 初回献血者数の推移(年代別)

的に高まっていくと感じた。

今後もメッセージリレーを継続することで、

年々減少傾向にある若年層献血者の確保や初回献

血者の確保への一助としていきたい。